

平成 27 年度教職大学院派遣研修報告書

派遣者番号	27K02	氏名	本間 忠明
研究主題 —副主題—	めあてをもって学び合う力を身に付ける体育学習の在り方に関する研究 —体育科におけるアクティブ・ラーニングの追究を通して—		
所属校	台東区立黒門小学校	派遣先	創価大学教職大学院

項目	内容
I 研究の目的	<p>平成 20 (2008) 年 3 月に告示された小学校学習指導要領解説体育編において、運動実施状況の二極化傾向や体力の低下を踏まえて、「体づくり運動」領域を低学年から位置付け、第 6 学年全ての学年で指導することとなった。しかし、「体づくり運動」領域は、学習指導要領で重要な位置付けにあるにも関わらず、多くの教員が指導することへの難しさを感じている領域である。</p> <p>また、平成 26 (2014) 年 11 月の文部科学大臣の中央教育審議会に対する諮問において、「課題の発見と解決に向けて主体的・協働的に学ぶ学習（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）や、そのための指導の方法等を充実させていく必要があります。」とあり、授業改善が求められている。</p> <p>体育科におけるアクティブ・ラーニングを実現するために、主体的な学習の意味を、児童の能力や適性、興味や関心等に応じて、運動の楽しさや喜びを味わい、自ら考えたり工夫したりしながら運動の課題を解決することを課題解決的な学習と捉え、それを「めあて学習」とすることとした。また、協働的な学習の意味を、児童が、仲間と仲良く運動をすることとであり、それを児童同士の「学び合い」による学習と捉え、研究を進めることとした。</p>
II 研究の方法	<p>1 実践研究 I 「第 6 学年 体育科 体づくり運動」の実践</p> <p>東京都内の公立 A 小学校の第 6 学年 2 学級で「体づくり運動」領域の「体力を高める運動」を実施した。児童が「めあて」をもつために毎時間学習カードの振り返りと授業での声かけにおいて、どのようにしたらできるようになるか、また、どのようにしたらできたのかなどの目的意識をもって関わり合うようにした。また、児童同士の「学び合い」については、児童同士で見合う場面を設けたり、掲示物を使ったりするなどの手だてを講じながら授業を実践した。授業で講じた手だてが有効であったのか、授業前後の質問調査の結果と、毎時間の学習カードによる児童の自己評価の結果から、その効果を検証した。</p> <p>2 実践研究 II 「第 5 学年 体育科 体づくり運動」の実践</p> <p>東京都内の公立 A 小学校の第 5 学年 2 学級で「体づくり運動」領域の「体力を高める運動」を実施した。実践研究 II では、より「学び合い」に焦点を当てるための改善を通して、ジグソー法を用いた授業を実践した。実践研究 I 同様、授業前後の質問調査の結果と、毎時間の学習カードによる児童の自己評価の結果から、その効果を検証した。</p>

<p>Ⅲ 研究の結果</p>	<p>1 実践研究Ⅰの結果</p> <p>「めあて」をもたせるための手だてとして、授業者が、児童が毎時間学習カードに記入した自由記述に対して、「なぜできるようになったか」「どうしたらできるようになったか」「友達のどのような動きがよいか」などのコメントを入れたり、同様の声を授業中にも意識的に児童に対して行ったりすることで、児童がただ運動するのではなく、「どのようにしたらできるか」などを考えながら運動するようになる考えた。また、その手だてを講じることで、児童が各自の「めあて」を立てる時にも生かされたのではないかと考えた。それは、授業者が児童にどのような力を身に付けてもらいたいかを明確にして、児童に他者と関わることの大切さを裏付けたものとなった。</p> <p>2 実践研究Ⅱの結果</p> <p>実践研究Ⅱでは、「学び合い」について焦点を当て授業改善を行った。ジグソー法を採用した学習過程を組み、その効果を検証した。学習過程では、ある程度の運動経験をする時間を確保することや、ジグソー法によって個人のチーム内での役割の明確化が成されたことによって、「学び合い」が効果的に行われたことが伺える結果となった。また、「学び合い」を行うための手だて通して活用した掲示物は、児童が学習のポイントを発見し、記入するために用意した。その掲示物を有効に活用するためにも、学習のポイントや注意すべき点などを、ホームチームの友達に伝えることを課したことによって、掲示物を更に有効に活用できたのではないかと考えられる。</p> <p>個人が他の人に伝えるという役割の明確化がされるジグソー法と、その伝えるべき内容を整理するためのツール通しての掲示物によって、「学び合い」が効果的に行われる結果となった。</p>
<p>Ⅳ 考察</p>	<p>児童が、体力の向上のために他者と協働しながら運動に取り組むことで、運動の楽しさや運動そのものへの楽しみを味わうことを経験することによって、生涯健康な体を維持するための豊かなスポーツライフが形成されると考えた。そのような考えの下、本研究を行った結果、教師が児童にどのようなことを身に付けさせたいかという明確な目的をもって児童へ関わることと、「学び合い」を促す積極的な声かけが大切であることが示唆された。本研究では「体づくり運動」領域に限って授業実践を行ったが、「めあて学習」、「学び合い」ともに、他領域、そして他教科とも関連も深く、実施できるものとする。一つの教科・領域に留まることなく、他の教科・領域でも研究を進めていく必要がある。</p>